

戦略的互惠関係の全面的構築

中華人民共和国特命全権大使 崔天凱

実は今日の午前中に、胡錦濤主席署名の信任状を天皇陛下に奉呈したばかりで、これは私にとって初めての公式活動です。

はじめに、中国大使館を代表して日本華人教授会議創立 4 周年に対してお祝いを申し上げますと共に、皆さんが両国関係発展のために尽力してこられたことに対し、感謝と敬意を表します。

中日関係は当面、改善と発展の好い流れにあります。この重要な時に、中国の大使として赴任できたことは大変光栄であると同時に、責任の重さをひしひしと感じております。中日関係が長期にわたり、健全且つ安定的に発展していくために、私の全ての智慧を傾け、全力を尽くしてまいります。

ご在席の教授、有識者、学者の皆様は日本で長期にわたって生活し、仕事をしてこられました。そのため、中国のことも日本のことも、また、東洋のことも西側のこともよく知っておられますし、中日関係についても独特の見解を持っておられますので、これからも交流していきたいと思っています。ぜひいろいろとご指導ください。

今年は、中日国交正常化 35 周年に当たります。温家宝総理は今年 4 月に日本を訪問し、両国指導者間では中日両国の戦略的互惠関係の構築について意見の一致をみました。来年は両国の平和友好条約締結 30 周年、さらに北京オリンピック開催の年、また、中国改革開放満 30 周年を迎えます。したがって、中日関係の良好な発展を図るうえで、本当に好いチャンスに恵まれています。

このようなときに、日本華人教授会議が「戦略的互惠関係の充実化を目指して」というテーマでシンポジウムを開くことは正に時宜を得たものであり、現実的意義があります。このテーマにつきまして、私の見解を述べさせていただき、皆様のコメントを頂ければと思っています。

戦略的互惠関係の基礎は、戦略的相互信頼を強化することであると思います。つまり、両国がお互いに相手の発展の道筋、戦略的な意図、外交政策の主旨、国防政策の性格など



基本的問題について全面的な正しい認識を持つ必要があります。こうしてこそ、はじめてわれわれは強固な政策的基礎を持つことになり、両国関係に好循環が生まれます。さもなくば、悪循環に陥るか或いは国際関係学でよく言われる安全保障上のジレンマに陥ることになります。

ご存知の通り、中国では先般、中国共産党第十七回党大会が開かれ、中国の内外政策について全面的且つ系統的な権威ある説明がなされました。その中で、特に皆様に留意していただきたいと思う幾つかの点を申し上げたいと思います。①中国の運命は世界の運命とますます密接不可分の関係にある、②中国は終始変わることなく平和発展の道を歩む、③終始変わることなく互惠互利(Win-Win)の開放戦略を堅持していく、④平和と発展と協力の旗印を高く掲げていく、⑤防御的な国防政策を推進していく、⑥先進国との戦略的対話を強化し、相互信頼の増進と協力の深化を図り、相違点は適切に処理し、長期にわたって健全且つ安定的な相互関係を発展させる、などです。

これによって、中国はこれからどういう道を歩んでいくのか、またどのような戦略的な意図を持っているのか、またどのような外交政策や国防政策を採っていくのかがお分かりになると思います。したがって、第十七回党大会の文献は、中日両国間の戦略的相互信頼を増進させる上で重要な意義があると思います。